

1. 令和2年度学習状況調査の結果から

Table with columns for 2年, 3年, 4年, 5年, 6年 and rows for 国語, 社会, 算数, 理科, 意識調査. It details learning objectives and student performance across different subjects and years.

2. 調査結果のまとめと分析 【赤字は結果分析における本校の特徴的な点とさらなる改善の方向性】

- ①令和元年度に比べ、同一集団内の全国平均正答率との比較で改善が見られた学年・教科は以下のとおりであった。
②学年による学力の差に開きが見られる。また、二極化が疑われる教科・学年が見られる。
③国語科では全体として、知識・理解・技能を中心に着実に学力が身に付いている。経年比較では3～6年生すべての学年で伸びている。

3. 分析 【赤字は結果分析を踏まえ、「学力向上を図るための全体計画」を見直した点】

- ①基礎学力向上を図るために一つ下の学年に学力調査の課題を伝え、授業と家庭学習の連携を計画的に実施し、日常の教科学習で振り返りシートを活用するなど補足的な取組を行い、D・E層の児童数を限りなく0に近づけさせていくことが必要である。
②全教科を通して活用力のうちの「表現力」に着目し、自分の思いや考えを確実に文章に表すことや、文章を丁寧に読んで考えさせる活動、話し合い高め合う活動の時間を確保するなど、授業の質的な向上を目指していく。

4. 令和3年度 墨田区学習状況調査の目標

本校のすべての学年で国語科・社会科・算数科・理科ともに平均正答率を目標値以上にする。

5. 目標を達成するための具体的な取組 【赤字は結果分析を踏まえ特化する取組】

- (1) 日常の指導の充実のための取組
①授業展開の改善点を全校体制で検討し、指導に当たる。ア、校内研究を今まで以上に充実させ、一つ下の学年に学力調査の課題を伝え、研究成果が日頃の授業実践に生きる「研究の日常化」を実現させる。
②学習形態の多様化を図る。ア、問題解決学習や体験学習を多く取り入れ、児童が自ら課題を設定し、課題解決を通して自ら考え判断できる能力の育成に努める。

6. 設定した目標の達成度を測るための指標

- (1) 日常指導の充実
①単元ごとの評価テストで80%以上の児童が期待得点以上の成績を獲得できるよう日常の指導の充実を図る。
②低学年の読書量は年35冊、高学年20冊以上を目指す。
③校内研究・学習意欲を高めるための指導に基づく授業研究を推進し、全員が年1回は研究授業を行う。

